

117
A5062
1

台湾土匪情况一斑并

土匪之起源

方之南及南北兩山之匪首且部下之率其
う投降帰順之台北附近に割拠以來播
盤を不逞不逞ノ分子を今日に至るまで
多ク掃清せんが得ずと。総督府ノ報告ト
名勝ニ於て新字紙ノ報道ト相一致シテ
平穩無事ニ見若し如シト虽凡其真相ニ至ラテ
ハ満和危懼ノ急ニ頻ヤ今尤之を台湾土匪
ノ起原ヲ總督府の上ニ對シテ最近ノ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56

措置、土匪が良民に對する態度に付て其
一斑ヲ概叙セントス

治匪ノ難たるは我領有以來、こころにス其以前
、ありて清國政府モ亦多悲願を經
験ヲ有セリ抑モ台湾住民ノ祖先ヲ討テ
ルニ宋末ノ頃ヨリ敗之ノ流民此地ニ漂泊
シ元明ニ至リテ漸ク其教ヲ加ヘト雖も當時各
情ハ蕃族ノ如ク西部ヲモ滿チサレシガ故ニ少數
ナル流民ノ一群ハ終ニ吾國ニ田園、生活ヲ
索ルル者ニ從テテ流民ノ占有ヤシ領域ハ僅海

濱ノ地ノこゝ限リ之カ生活ハ早業ノ家業ニ依
リテ得可キナルヲ自ラキ當時海峽ニ横行
スル海賊ノ群ニ入り不義ノ財宝ヲ海上ニ掠
奪スルニ至リテ顔思齊ノ割據ハ如ナリ名譽ノ
歴史ニ上リタル如キモ其以テ久シキ間
ノ長官所ヨリテ記セラル可キズ鄭氏ノ族ニ
至リテ海賊ノ歴史ノ一度ニ明情移度ノ歴史
史上名譽ヲシテ最有力ナル國係地トナスニ
至リ然モ海賊ノ要行ト名譽、移住民トハ
當時尙ホ密接ナシ關係ヲ有シ陸上ノ不毛

ト蕃書来トニ由リテ困難ナリシ生活ハ常ニ海
上ノ財宝ヲ求ルンノ存ニ或ナリシ事ハ明ニカ
ニシテ聖々々々唱スルノ鄭族ニモ其軍兵
糧ノ供給ニ窮クニ至ル時止ラテ得ル悔滅ノ
政略ヲ藝用セシ証跡ハ歴史ニ就テ凡ル可
キナリ鄭氏ノ降情ヲ以テ南情地方ノ生
民警備ハ太平無事ノ秋ニ降シテ暮シカ
ニ事疑ナリ生流ノ困難ナルヲ加フニ隨ニ新
領土ノ移住ノ民漸ク多ク又糧々々ハ派兵ヲ
犯セシ者跡ヲ本島ニ晦スモアリ福州泉

州漳州ヲ始メ唐宋西ノ諸民前後相踵ガ
テ渡航シ其勢力ハ昔時一二ノ流民ト異ナリ
各々相考カシ武差ヲ準備シ適宜ナル團體
ヲ結成シ右手ニ銃ヲ持テテ生蕃ヲ巡撫
シ左手ニハ鋤犁ヲ持テテ不毛ヲ開墾シ蕃
一歩ヲ退ケハ墾一歩ヲ進メ殺伐ノ氣味ハ又祖
相傳ヘ之ヲ以テテアハ自安ノ安樂ヲ望ム
能クナリシナリ故ニ生蕃ノ子孫ニ對スル歴
代ノ深仇ヲ昭雪スル印スル者之ニ隣由ス而シテ
事ニ生蕃ト相對シテ殺伐ヲ行ハル可カラカ

ハノミナリトシテ
中ノ各團ハ又更ニ相互ノ福利ニ依リテ相凌
カシク免レズ一堡一堡ノ間ニモ或ルコト急リ武
備ヲ施スルコト既ツガリキ誠ニ腕力目力カノ
争奪地ニシテ一般住民ノ殺伐的氣風ヲ
創致セシ所ヨリ住民カ斯ノ如キ強忍ナ
ル性行ツ他ノ一帯ニ於テハ明ラカニ利益アリテ
民々其勇悍ニ開墾ノ結果生業富ツシテ
今ヲ西部ノ原野ヲ撰テシタリ此等ノ條々
於テ情ヲ政府カ各領ニ於ケン措置ハ其印メ

杜ラテ放慢ニシテ
之ノ傾向アリシガ田園稍ヤ開ケ利権漸ク知
ルルニ至リ收斂ノ事ヲ島民ノ頭上ニ課シ
其賦課モ亦以テ之ヲ苛酷ナルヲ加ヘタレバ不
逞ノ徒始テ反抗ヲ試ムルニ至リ之ヲ朱一
貴ノ乱トナス之ニ次テ林義文ノ如キ大乱アリ
殆ンド今島ノ支那官吏ヲ殺戮シ各中南
北ヲ占領シタリ尔後平定ノ日ニ至リテモ之等
ノ殘徒ハ尙在ニ出沒シ往奪殺掠ヲ以テ
其生業トナシ小乱小争新元ニトナク武裝ヲ

生、乱 又各中以南、各地に侵掠を
此等ノ徒四入ニ奪奪し、其生業ヲ殺伐
屠奪ニ専ラシムルニ及ビ、往來、匪視セシ各族
其間ノ感情、一変セシ、我民ト土匪
トノ二區別トナレリ、然レ民情、政府ハ幸ニ
苟安ノ策ヲ執リ、断テ大計ヲ行フヲナサ
ザリ、此カ故ニ、歴代ノ名將、撫ハ何レモ一時ノ
擁直ニ依リ、或ハ良民ヲ助ケテ、土匪ヲ討伐シ
或ハ良民ニ誘ヒテ、一定ノ金銀ヲ土匪ニ與フ
其暴害ヲ避ケシメ、タリ、彼ノ劉鋹傳ノ時

ノ如キニ、實ニ土匪殺スル者ヲ良民ヲ徵收シ
各地ノ土匪ニ誘ヒテ、各其匪領ヲ一定セシメ、
此地ノ税ハ此匪ニ與ヘ、他地ノ税ハ彼匪ニ與ヘ、
ルコトヲ認許シ、タリト云フ、尤レハ昔時ニ於ケル
海上ノ財富、遠東ニ至リテ、陸上ニ至ルニ至ル
者ヲ受テ、得無救、徒進食、良民ニ被害ニモ
之ヲ以テ、先天的ノ富生トナレシ、至リテ、方之、蘭ノ
上、匪ノ如キハ、他ノ各地ト異ナリ、其地勢上、自
然ニ團結ノ力ヲ強クシ、其代ノ匪係、連綿トシテ、
匪首ノ命令、能ク部下ヲ統率セリ、各南各此

ノ各地ハ社未交通ノ便アレガ為メ其聚散莫合
常ナラズ時トシテハ數千ノ勢ヲ烏合シ時トシ
テハ八方ニ鳥散シ所謂ハ首領ナル者常ニ數
十名アリ各此ノ北ナル金包里大屯山ノ方面ニ割
據スル者ヲ總稱スル北山ノ土匪ト云ヒ各北ノ南
方文山堡獅子頭附近ニ出沒スルヲ南山ノ
匪ト云ヒ大山嶺嶺ヲ樹圪林ノ山中ニ居ル者
苗栗一二三埔ニ散在スル者各中縣南此投
ノ一帶ニ據ルモノモノ雲林林圪埔ノ間ニ殘
留スルモノモ曾文溪ニ出沒スル者各南ノ山地

ニ在ルモノ鳳山下淡水ノ溪谷ニ跋扈スルモノ
等ハ前記土匪ノ分立セル地方ノ區別ナリトス
而シテ宜蘭ノモノハ最モ優越ナルヲ統リ
傳存せんかゆキモ其地勢ノ偏僻ナルニ據リ
テ要害モ亦此ノ地方ノ外ニ出テズ他ノ小分
之せん土匪ノ害甚ニ比スルニ其ノ手槍ノ
銃アリシテリ以上ハ各情ニ於テハ一般士人が
自カク殺伐ノ氣風凡テ馴致スルモノト土人ノ
一軍ハ古来海賊山賊ノ生業ヲナセシ者ナル
コトハ清廷政府カ之ヲ滅尽スルノ大策ナリシ

コト等ヲ略叙ラズ他ヤラズ
土一匪ノ事歴シテ所ノ如クシテ情不略代々存
マ一難沈ノモノニ集ク人ガ是等ノ群團ニ
十ノ九年本島ノ大動搖ニ乘ジ一部ニ割
承福ガ奸福ヤル病部ニ依リ一部ニ割
強奪攘劫ノ爲リ逞フセント欲シ所在轉起
シテ帝兵ノ軍隊ニ抗シ又ハ富良ノ財地ヲ
奪ヒ爲メニ我兵カト行政力トシテ或多ク
錯難ヲ感ゼシメテ付代ニ以テ付代ヲ以テ
シ終極ニ加フニ終極ヲ以テ爲メ且ツ
取眼

帝ヲリ出沒定マラス此三年後ノ今日
及テウ宛玉總督後麻長直ニ世人歡迎ノ
中ニ現在ヤウレ其知所先ヅ此蕭牆ノ
憂ヲ一掃セシムルコトヲ以テ先キ職
ヲ以テ督府ニ奉ジ土原良清ヲ知ルヲ以テ任
シテ通譯官吏等々其合議ニモ謂フベキ
沈臺意見書ヲ呈出シ人ガ終極ニ長直ニ
信カマハ匪ノ急ニ急ケリシ際ヤレハ直ニ後
意見ノ一項ヲ採用ラズカ如何ナリシモ其
深ク沈臺ノ方針并ニ結果ヲ考テ其セリ

ツ道 憾ナル

後藤長官ハ先ク立寄ル所ノ所者林火旺
等ヲ降服セシムルノ目的ニテ一名ノ通証ヲ泚
シ西郷隆長等ト匪首ノ出山ヲ勸誘シタ
ルニ匪首ハ山ヲ出デ、台ハハ、出府スルノ者候
ナルヲ疑フテ肯ニセザレニ由リ後藤長官ハ
段々立寄ル所ノ所者林火旺等ト匪首ノ出山ヲ
林火旺等ヲ降服引見セシメシモ一匪首等
ハ皆テ降年多感ハ降服ノ所キ未ダ我ソワテ
スルヲ峻拒シ堪和ノ意ヲ以テ今見ニ且ツ手

和ノ約束ヲ結ブコトニ前朝ノ例ノ如クヤト主張
シタレバ更ニ數回ノ招徠ヲ受ヤシ漸クニテ半
和睦ヲ降服ノ如キ会見ヲ終ハリ孰モ降
参ルノ類ハ他日ノ期ニテ一齊トテ降服ヲ
行ナハ其後再び下附スルコト 各匪徒ヲシテ
相尋ル生世業ニ就カシムルコト、右ニ對シ各匪
首ヨリ其部下ノ土匪人別表ヲ届出ツリキ
事トシ扱土匪ノ生世業トシテ一着ニ立
寄ル旨此ニ通スル山道ニ事ノ一車ヲ用盡
スル旨令リ候ヘ之ニ對シ准テ備置スル旨目

ニシテ若干回ノ土本登リテ会见之當日各匪首
ニ下學シテト云フ

夏末ニ於テ表面一切ノ成印ハ皆泥ノ如キ
以テ未シテ此ノ後地ノ匪情ハ民化ノ如ク各
地ト大ニ免ル者ナルカ故ニ其患ニ実モ急迫
ナラザル者アリ然レニ後ニ局長官ハ初變ノ
成印ト云フ可キ出信果シテ直々ニ此附
近ナル南北両山ノ上ニ匪ニモ以テ軍ヲ應用シテ
以テ一帯ニ降降沈没ノ下ニ立タシムト決心
シ歸方ニヤ吾ヤ何事ヲモ顧ミズシテ村

上告此縣知事ニ命令シテ招降ニテ名手セシメ
テ村ト知事ハ命ニ依リテ先ヅ南山ニ鄭
文煥往來陳社菊ノ徒ヲ向テ呼喚ヲ設キ
シモ彼等皆見テ山ヲ出テズ知事ノ来ツテ
令見セシトテ求メテ由是知事ハ自ラ文
山僅ニ出張シ十日ノ逗留ヲナシ却回ノ往
復及ビ招降ヲ試ムルモ帰順若クハ投降ノ如キ
ハ断乎トシテ土一匪ノ排斥ニ所ナリ桂ノ和
睦ト主張スルノコトナリ此ニ村上知事ハ一方ニ
断ノ如キ強強ノ匪情ヲ和ハ一方ニ後ニ局長

官より口役ノ習儀ク受テ然ニ土雁等ニ對シ
テハ伊吹等ノ語ヲ用弁々仲直リト云フカキ
今見ヲナシ之ト同好ニ北山ナル岡左柳林清
キナドノ雁首ニモ同様ノ約束ヲ以テシテ
其部下ノ人好々右住所并ニ式番書ニ記
テ立處ニ對シテト同様ニテ數テ牧ノ標紙
ツ下附シ之ヲ所持スル土雁ハ自由ニ良民トシテ
從來ニ交通スルコトナシリ其成切トモ謂フ可
キ事ノ太平ハ何時迄ニアヘリキヤハ未來ニ属
シ何人モ之ヲ推定スル能ハズ殊ニ土人中一般ノ

疑懼ニ至リテハ最大ナル者ナリノ時ニ陸シ是等
土雁ヲ招出シタシ然果ハ眼前ニ罕ク已ニ減多ノ
危殆リ衰敗セハカメシ之レヨリ以下ニ於テ其着
大ナル諸ト云フ橋記セシトス
土雁ノ國地ナリ土雁ハ比較的一致統序ノ便アリ
ハ亦述ル如シたハ其序順後ノ表面ノ動靜ハ
先ツ手摺テハカカシト云ハ今ヨリ十餘日ハ二名
ノ内他人之國街道ニ於テ土雁ノ害ニ遭ヒ一名
ハ殺害セシ一名ハ傷シテ逃回ルルアリ
三月廿九日午後九時長ノ林大雁ヲ見出シテ此

軍行各ノ取調マシテ且ツ林火旺カ召喚ノ為
出頭シヨムニ武裝セシト雁ノ渡衛者數千名ヲ
隨行セシト河ノ無收ヲト詰書シテ人ニ林火旺ハ
御座トシテ署長ウ一覽シテ答フテ我部下午
者一日各之カ一ニノ軍行マシテ詳密ニ定智シテ
之得可ヤラズ又我徒者カ武器ヲ奪クニ恰カ
ニ長官ガ出門ノ時兵士ノ渡衛リ附シテ人ガ
如シテ事終ノ事ナリト答ヘ再三問答ノ末ニ彼曰
ク此等ノ事ハ事ト法ニハ要ラズ我ハ氏ハ長
官ニ直次ニウキトト辭セシテ門外ニ去リ良
署前ニ待テセヨト云ク渡衛ノ上雁一隊ニ見

今ニテ一齊空銃ヲ発シ引キ揚ゲテト其機
器ナシ得クニ機ニテ向シテ道取用聲ノ
力メ先ツ一方餘内ノ下附金アリト云尼未カ
所當モノ署手カモオラストナシ
此此南此西山ノ上雁ハ其統括ニ困難ナル
コトニカ既ニ之ヲ述ベテ向シテ招撫以後ハ
各自一教ノ帰順報レトモ云フテキ者ヲ持テ
交通シテ本自由トナシニ付未カ銃器ノ兵
隊ヲ然ラザル事トテ其ニ後浪雜名狀
ヲ可カラズ先ツ者初テ起リタル種々ノ現

況シ直筆スレバ尤ノ如シ
以テ南北両山ノ匪首等が變味ナル和睦ヲ結
督府及此島に事ニテ兼謀スルヤ一匪首
中ナルニ三ノ巨魁之ト合同セズ多少ノ部
下ヲ引率シテ南方ニ向テ潜行シ苗粟附
近ノ山中ニ入リトノ事
鄭文流徐保臣社菊岡大獅林情秀是也
ノ匪首ハ一先ツ招撫ニ應ジシ氏前迹如
ク其部下ニ對スル令々推ハ強大ナラザル
か故ニ末輩ノ匪ハ容易ニ善行ヲ止カザ

此事

各匪首ノ其子カノ多劫ヲ果シテ以テ勢力
ノ大ナルヲ誇張シ併セテ總督府ヨリ生業金
ノ多額ヲ得ントノ慾望ヲ有シテ現在ノ部下
ニ好信を以テ申出ラシメタリ尤レハ右左澤ヲ調
製スル時ニ及ベバ勉マシ其數ヲ實サスルマサ
ル中ウズ此ニ於テカ市井ノ各物價値亢者
ヲ疏動シテ我部下ニ引カ毎人毎月十條
月ノ月給ヲ與フ事
去ハ月中ノ暴風雨ニ依リテ田園家屋ヲ失

つ多ん貧乏者并に所在に室伏せん母於後
等ハ之に依りて生活セシトせんくうくふ土匪に
對してハ何片ノ吸食モ黙許セウシ又將來
賦課税モ特免セウルハトノ理由ヲ以テ中等
位ノ土人中ニモ内々土匪ノ著集ニ應せん者
アハ事

土匪何果ノ部下ナリト一救ノ帰順録札ヲ出
セバ終テノ取扱一變シテ罪辟モ赦んサレハ事
土匪ノ首領ハ白日青天書至トシテ匪群ヲ從
ヘ台此城中ニ入リ謝恩ト稱シテ終極官邸

長官ノ御知事官衙ヲ訪問シ其轄ハ新布
ヨ以テ之ヲ飾リテ分衛ニ對シテ素著クテ差
添え込を之に救名也言衛ニ後衛ニ部下
ノ一隊ヲ立テ井銅鑪酒飲ヲ具テシテ、行列
スルニ宛然若侍情も大官ノ行装ニ事
匪ノ後侍セシムル如斯クシテ土人ハ其勢威
ノ大ナルニ驚嘆シ政府、土匪大人、良民ノ
三級順序ナリト感シ居ル事
何事モ土匪ノ所行トシ謂ハニ一般ニ免
償セウシ之ニ及ビテ良民ハ刑事ニ元ヲ終

テノ判裁ヲ受ルニト最ナル事
土陞ハ知事以上ノ人ヲ以テ自己ト對等ナル
人ナリトシ年俸若長以下如言言ノ如クハ全
ク無視スル事

土陞ハ一方ニテテ政府ノ憲假ヲ得一方ニテテ
良氏ノ畏敬ヲ受ケテツクハ人ニ乘ジ名博
調製ノ間ヲ利用シテ弊リニ富貴最ノ財宝
ヲ奪取シ又ハ強請スル事

土陞ノ是行ハ二種ノ別アリ 一即チ富民ニ
向テハ武器ヲトリ推シテ温言以テ昔時

慣例ナリシ土陞視リ請求シ若シ出金ヲ肯ニセ
ズル者アラバ拂然ニ三ノ威ヨシ文句ヲ遣フコトナリ去
リ又中孝以下ノ民家ニ向テハ短刀直入ノ恫ヲ
用井多言ヲナサズシテ強執其他ノ先著ヲ示シ
現在セル金品ヲ一攫シテ去ル此ノ淫盜的ナル
乃ノ中ニ三ノ事實ヲ記サバ他等ハ白晝一良
夜ニ對シ三四人ノ伍ヲナシテ無遠慮ニ押入
内ヲ門ヲ鎖シテ外本ノ人ヲ閉切又家人ノ通
逃ヲ妨ゲ而シテ待クニ家人ヲ脅迫スルヲ常トス
在ル所ノ財宝多クアラハ奪取ニ得レバ

土匪ハ船中ノ箱埋メテ所ニ於テ李春生
ヲ始メ或モノノ紳商等^{紳商}口唱シテ^{口唱}乃月ノ
金ヲ取リ

土匪ハ船中ノ箱埋メテ所ニ於テ李春生
ヲ始メ或モノノ紳商等^{紳商}口唱シテ^{口唱}乃月ノ
金ヲ取リ

又大甲、桃仔園、三角潭、各地ニ於テ
シ大甲、三角潭、桃仔園、各地ニ於テ
絶金ヲ奪ヒテ三角潭、三角潭、三角潭、三角潭

キ折ラシテ若長以下僅カニ身ヲ免カシ
鳳中ノ城内ニ於テ^{鳳中}身ヲ免カシ
ニ逃去スル者^{逃去}院^院一名逃去一名傷死
シ

北山ノ匪首^{北山}大獅^{大獅}トシテ^{トシテ}部下ノ所行
ヲハキリ芝蘭街長^{芝蘭街長}ヲ^ヲ捕メテ^{捕メテ}部下ノ
ニ之ヲ怒リ^{怒リ}出頭セリ^{出頭セリ}部下ノ
物名ニ命ジテ街長ヲ捕メセシメ^{捕メセシメ}鞭打置

后多ん後 贖身 室うはり之ヲ放還ス
文少監 室うはり所、テハ、ト於土西ヲ招撫
スルノ命令又ツ直知、トありし、ト以テ先キ、ト陳
鄭等ノ西有出山スル人、ト一、ト度之ヲ付、ト
トシタルヲ并、ト防、ト者、ト是ノ調停、トテ、ト果、トカ、ト
こ、ト以、ト事、ト民、ト政、ト長、ト官、トヲ、ト任、トテ、ト給、ト給、ト者、トニ、ト違、トス、トハ、トヤ
最、ト遣、トヲ、ト及、トリ、ト手、ト續、ト書、トヲ、ト差、ト出、トセ、ト
陸軍、ト幕、ト僚、ト附、ト、ト免、ト通、ト次、トハ、ト木、ト茂、トヤ、トん、ト者、ト叔
日、ト前、ト救、ト軍、トス、ト途、ト、ト陳、ト秋、ト菊、トカ、ト子、ト果、トヤ、トん、ト者、ト
カ、ト新、ト轉、ト、ト乘、トじ、ト心、ト直、ト、ト涉、ト衛、トセ、トメ、ト部、ト下、ト

一、ト段、トヲ、ト從、トヒ、トリ、ト行、ト列、トス、トニ、ト今、トフ、トハ、ト木、ト茂、ト儀、ト移、トリ、ト能
ハ、ト思、トフ、ト新、ト轉、ト、ト一、ト捧、トリ、ト告、トフ、ト護、ト衛、トノ、ト進、ト退、ト之、ト
ヲ、ト捕、トヘ、トリ、ト終、トテ、ト奪、ト者、ト、ト拘、ト致、トス、トハ、ト木、ト茂、ト解、トシ、トテ、ト
僅、トカ、ト放、ト還、トセ、トウ、トん、ト然、トレ、ト其、ト翌、ト朝、ト、ト至、トリ、トテ、ト彼、トカ
果、ト死、トセ、トん、ト理、ト由、トヲ、ト知、トル、ト者、トナ、トシ
招、ト撫、トノ、ト亭、ト農、ト林、ト本、ト僚、トカ、ト後、ト、ト昨、ト年、ト来、ト其、ト遣
留、トセ、トん、ト野、ト亭、トノ、ト相、ト送、ト者、トト、トニ、ト人、トノ、ト子、トヲ、ト帰、ト
化、トセ、トシ、トメ、ト居、トタ、トん、トガ、ト土、ト西、トノ、ト跋、ト扈、トヲ、ト起、トリ、トト、トん
ヤ、ト年、トヲ、トエ、トニ、ト子、トハ、ト降、ト清、トタ、トリ、ト
年、ト来、ト土、ト西、ト門、ト福州、ト地、ト方、トニ、ト土、ト西、トノ、ト連、ト結、トセ、トハ、ト一、ト群、ト

敗兵残卒ありしか之等、若モ今ハ待重ノ討ニ
究シ氣力ヲ沮散シテ敬礼セントスル折柄ナ
科ラフ事今因経督府カ懐多年ノ策ニ依リ上
座ニ特興ヲ興フルヲ聞キ撥棄マ可シトシテ大
ニ元氣ヲ恢復シ中ニ再ビ先着ノ事載入リ
準備シ又ハ已ニ陸路海路ニテ運動スル者
モアリト

之ニ至リテ大楠徑勝州附近ニ在留スル福厚
地ノノ南民ハ三々五々ハ便毎トシ得航ス
ル者多ク河モ不日來ルコトスル懸掛リ恐レ

其ノハ土匪ノ日夜ニ往來シ且ニ此ノ邊キ
為ナリト云フ者アリ

大凡土匪ノ振撫セウシテ出山セシヨリ此ノ遠キ
部族ハ元々總督府ノ降下スル北市内ノ
富家良民日夜其劫奪ヲ受テハレトナシ
此ニ於テ民間ニ亦今ハ官府ノ保護ヲ信託ス
ル能ハズシテ自衛ノ方途ヲ立テ保甲局ヲ作
リ掛ケルニ没スルハ許可ヲ得キル此保甲局
ハ前情不詳代ノ制ニ依リテ民身ヲ捐集シテ
壯丁ヲ召集シ武装整戒以テ土匪侵凌ヲ

防ヶ者あり然んこ此後甲午の加はるは後世又
一之西よりいこ捕縛してはる事者之是致也
者大抵一今ノ帰順認めり有い人か故ニ
はる事者者ニテ長官ノ懐る事ヲ認解したん
者カ之ヲ釈放したん事モ少ナからん向して保
甲ト土庫ノ衝突ハ一日ニ切迫セントス
以上ノ事ハ然々々ん況状ノ一証ヲ記してはる事
ト云は又以テ事具博地良西浪私順逆不
命ノ危執アリ事知セらるこ是之は後之長
官ノ事久ニ依い此ノ如キ事即ヨリ法想せん

浩果こし今後此上西中ニテ順逆ノ二種
ヲ鑑別し順者ハ之ヲ接用し逆者ハ断絶討
滅ノ事ハ出つ可トノ方對テリト云フ然
レモ之が為ニ困難ヲ感じ危實ニ迫りるん良
民ノ感情少何恃タ多在流河内セハ世教ノ
徒カ之ニ由りテはる事者逆陣ノ弱ニ向ッ
テ附和テ田圃ニ加之コトハ福厚對岸地亦
りノ接用接ワ受らんニ至らん其害ノ著大ナ
ラコト二十九年一月ノ変三十年五月ノ変ニ
此し一層激甚ナハ者アルヤ必セリ然レ民

後之陸長官ノ方針ハ寧ニ比レ円満ニ信果
ク望ミノ條リ種々ナリ手段ヲ用サレ一昨ヨ編
緋ヤレトス者ノ如シ民々通信此ノ設立ヲ
嚴禁スレ、新字紙ヲ買ヒテ氏臣等ノ所
有トナシ、其他言端出版ノ容アリト聞ケル
万方之ヲ防遏スル手段ヲ爲ス、又甚シキニ
至ルテハ信書ノ枚数ヲ破リタリトノ夙夜
或ハ二三ノ寄信リ重寄ニ置キテ或一部ト神
速ナル氣脚ヲ通シ閣上ノ態度ヲ注意シ其
寄信者ノ一人ニカ返書キナル村上浪六モ亦

之ニアリトノ事ナリ又堂室ノ一新テ紙ニ書キ
トシテ之ニ趣帰順ノ趣奉リ報會シテ天下
ノ耳目ヲ驚動セシトスル者ノ如シ在名内地
人乃其ノ良民紳士等ハ之等ノ措置ニ對
シ然僕ノ舌リ免スル者少ナカラズト云フ
數百年來ノ氣風トシテ新代ノ事ニ馴レ地獄
山賊ノ系統ヲモ存存セシ土産ノ性情ヲ知
ラズ其成テハ帰順ノ如キハ世ハ亦者ナリヤ
而シテ今ヤ地租ノ新賦并ニ土地丈量ノ
事アル此ニ事ハ土人ヲ向テ最モ不快ナル事

松ノ崎一ツ、アハカ敷、或ハ土匪ノ勢カウシテ
島外ノ膨大ナウニクニトナキク保セムリノ説
アリ

附記ス 夫ノ如キ尤モ慨嘆スベキ風説ナリ
数日前文山堡年伊若長谷信敬其部内ノ
等ノ部一名ト共ニ土匪ニ移取ヤウシテ伊孫言部
長ハ巡査三々名ウリ連シ取戻シニ出張シ陸判
ノ結果三万内ノ身全ク出シテ僅カニ連
シ得リシト又艦解等々案署長モ同様土匪ニ
移去ヤレシトノ事ナリ本署内陰謀シテ実ヲ漏ラサスト